

# 第十九号

2014年1月1日発行



# JABLAS NEWS

## 目次

年頭のご挨拶並びに JAB 試験所協議会 創立 5 周年・法人化記念講演会のご報告	2
一般社団法人 JAB 試験所協議会	
代表理事 井須雄一郎	
会員の声 (その 1) 「ピペットの認定校正機関としての歩み」	4
エムエス機器株式会社	
リキッドハンドリングサービス部門 小谷口 浩人	
大野 順子	
会員の声 (その 2) 「ISO/IEC 17025 試験所認定の維持」	8
パナソニック S N エバリュエーションテクノロジー株式会社	
EMC グループ 稲葉 拓生	
新連載 「測定の不確かさへの思い (第四回)」	11
公益財団法人 日本適合性認定協会	
校正技術審査員 丹内 清光	
活動報告	13
今後の予定	15
事務局だより	16

一般社団法人

**JAB 試験所協議会**  
JAB Laboratories Association

## 年頭のご挨拶並びに JAB 試験所協議会 創立 5 周年・法人化記念講演会のご報告

明けましておめでとうございます。

会員の皆様には、ご家族共々清々しい新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

平素は、一般社団法人 JAB 試験所協議会（JABLAS）の活動に対して絶大なるご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。今年も変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

さて、JABLAS は、ご案内のとおり、さる 2013 年 4 月 1 日に創立 5 周年を迎え、同日をもって一般社団法人として新しく発足しました。

会員数は発足当時から大幅に増え、2013 年 12 月末現在で機関会員 121、個人会員 94、合計で 215 となっております。

法人化により、JABLAS の対外的信用度が増すとともに、その責任度合いも増してきたことを踏まえ、改めて当初の設立理念に立ち返り、試験所等の活性化に繋がる活動を推進していきたいと考えます。

具体的には、前号でもご紹介しましたが、来年度以降の活動の方向性（戦略）を、以下の 3 プロジェクトを中心に行うべく検討を進めております。

- 学 プロジェクト：「学ぶ」を中心に、各種公開セミナーや講師派遣セミナーの充実を図るとともに、従来のセミナーに加え、技術・技能の伝承を目的とした新しいセミナーにチャレンジします。
- 交 プロジェクト：「交流」をより促進するため、見学会、勉強会等のレベルアップを図ります。
- 解 プロジェクト：「解決」をテーマに、様々な問題や疑問に対応するための相談コーナーを始め、各種のアドバイス・指導等の充実を図ります。

また、これまで実施してきた各専門部会活動は、よりの確なテーマについて、スピードを上げて行うため、プロジェクト単位で実施することを検討しています。

さて、JAB 試験所協議会の創立 5 周年と法人化を記念して、2013 年 11 月 6 日に、会員はもとより非会員の皆様も含めて合計 37 名の参加を頂き、東京都品川区立総合区民会館「きゅりあん」にて記念講演会を開催しました。ここにその概要をご報告いたします。

講師は計量・計測分野の権威者である、独立行政法人 産業技術総合研究所 特別顧問 小野 晃 様及び試験所認定機関から、公益財団法人 日本適合性認定協会 常務理事 認定センター長 藤巻 慎二郎様のお二人で、貴重なお話を伺うことができました。

初めに、小野 晃 様から「試験結果の信頼性とは何か」というテーマで、

1. 誰のために計測するのか — 計測の内部性と外部性
2. 試験結果の信頼性 — 科学的根拠と担保する制度
3. 原発事故の事例 — 放射能計測の信頼性

引き続き、藤巻 慎二郎 様 から、「試験所認定の国内外の動向について」というテーマで、下記内容の講演を頂きました。

1. 試験所認定制度 (JAB の活動)
2. 国際相互承認協定
3. 認定の活用

講演後、懇親会も開催され、参加者と講師、JAB 幹部、JABLAS 関係者との交流も活発に行われ、有意義な一時を過ごしました。

以上



JAB 試験所協議会創立 5 周年・法人化記念講演会の状況

## 会員の声（その1）

「ピペットの認定校正機関としての歩み」

エムエス機器株式会社  
リキッドハンドリングサービス部門  
小谷口 浩人  
大野 順子

### 1. はじめに

弊社は、仏国ギルソン社の日本総代理店として、ピペットマン®を販売しております。ピペットマン®は、容量連続可変式のピペットとしては世界で最初に開発された製品で、改良を加えられながら、ライフサイエンス分野を中心に幅広いユーザーの皆様に支えられ、本年に発売 40 周年を迎えました。

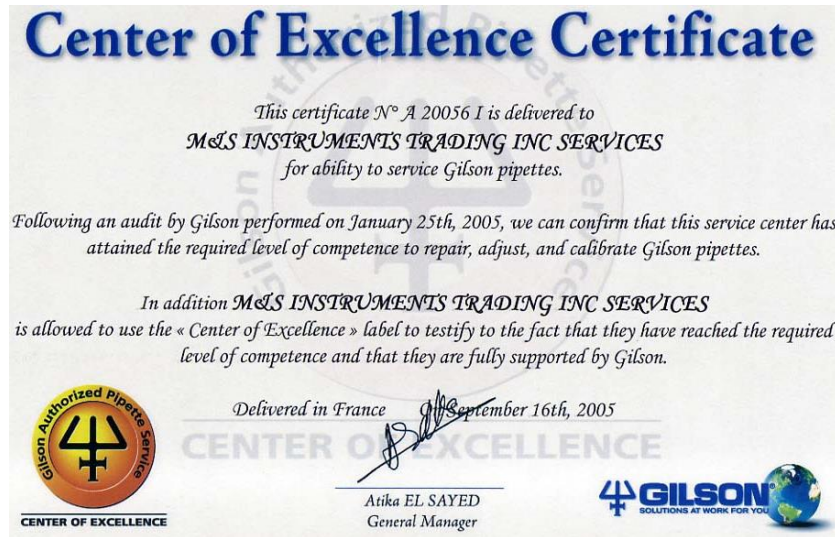


[ピペットマン発売 40 周年記念ポスター]

その間、国際規格等も整備され、ピペットマン®は ISO-8655-2 によって Piston-operated volumetric apparatus / Piston pipettes / Air displacement (Type A) に分類されております。

## 2. ISO/IEC 17025 認定取得に至る経緯

ギルソン社は、ピペットの修理・校正能力について Center of Excellence の社内認定制度を行っており、弊社のサービス部門も取得していました。



### [Center of Excellence の認定書]

ギルソン社が 2004 年 4 月に COFRAC からピペットの校正に対して ISO/IEC 17025 の認定を受けたことを契機として、代理店にも国際的な認証取得を奨めるようになり、2004 年 10 月にギルソン社主催の 3 日間のトレーニングに参加しました。品質面・技術面の詳細な説明を受けましたが、当時は全容を理解するだけのバックグラウンドはありませんでした。そこで得た知識は後に实际的に役に立ちましたし、講師を務めていただいた方にはその後質問に答えてもらったり、追加の資料を戴いたりし、随分お世話になりました。

当時ピペット校正の認定プログラムを持っている認定機関は日本にはありませんでしたので、ギルソン社のトレーニングと前後して、JAB に相談にお伺いしました。青柳様にご面談して戴き、前向きに対応して戴ける旨のご返事と励ましのお言葉を戴きました。その後、紆余曲折を経て、2007 年 11 月に認定書を頂くことができました。

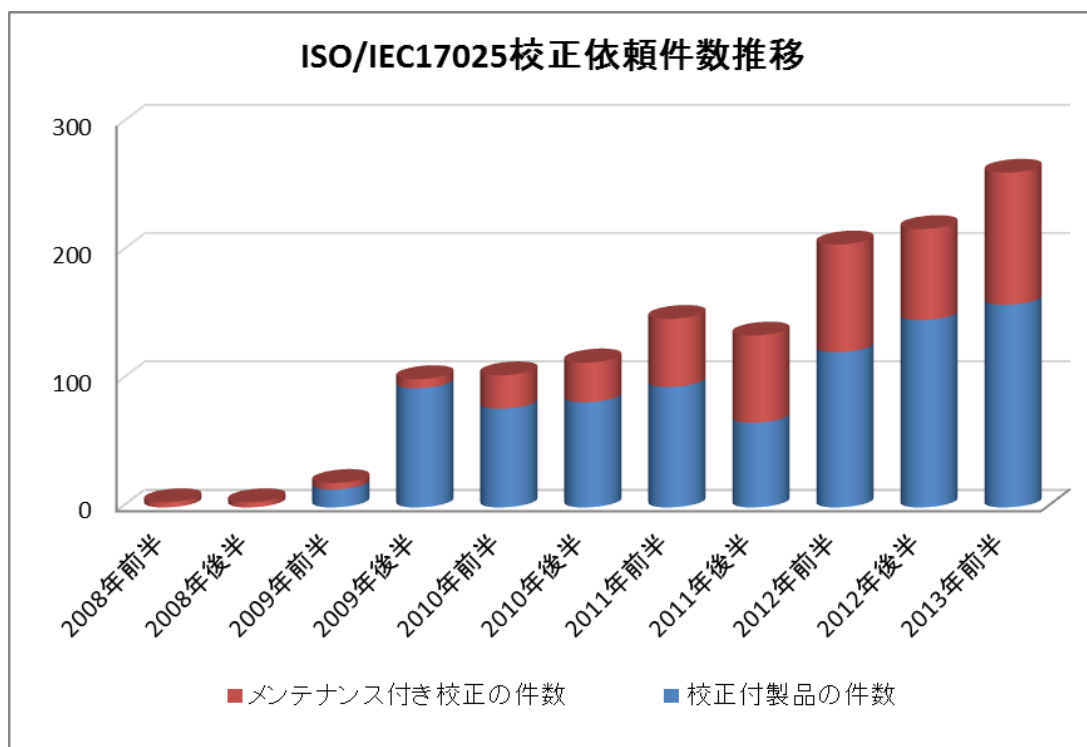


[ピペット校正室]

認定を取得する課程で、空調設備、環境測定・記録装置、校正ソフトウェアの整備を行いました。また、参照標準の管理、電子天秤の校正方法など、重要な手順を確立することができました。

### 3. 校正サービスの現状

認定を頂いてからピペットの ISO/IEC 17025 校正のサービスを開始しました。カタログ、展示会、WEB などでの広報活動を行い、依頼数が徐々に増えてきました。また、校正証明書付きの製品の販売も開始しました。



当初はギルソン社製のマニュアルタイプのピペットのみを対象としていましたが、第一回目の更新審査の折に、ギルソン社製以外のピペット及び電動タイプのピペットも校正対象に含まれるようになりました。

各種検査機関様からの依頼が増えており、社会的に必要性が高まっているように感じております。

#### 4. お客様と共に

本年6月から、調整した後に校正するサービス、校正証明書付き製品の販売の従来からのサービスに加えて、校正のみのサービス、及び、受け取り時に校正して調整後にも校正のサービスを開始します。

受け取り時校正については、校正機関で実施しているお客様へのアンケートのご回答で、半数以上の方からご要望をいただいております。

今後も、お客様からのご要望を取り入れて、校正機関として成長し続けていきたいと思っております。



〔校正機関トップマネジメントと校正メンバー〕

## 会員の声（その2）

### 「ISO/IEC 17025 試験所認定の維持」



パナソニック S N エバリュエーションテクノロジー株式会社  
EMC グループ 稲葉 拓生

#### 1. はじめに

当社は、パナソニックグループの品質保証を担当する部門として、1960年から計測器の校正業務を開始し、その後、技術の向上を図りながら、EMC（電磁両立性）試験業務、包装試験業務と業務範囲を拡大してまいりました。

そして、1985年 独立会社である松下通信エンジニアリング(株)として発足。2003年 パナソニック M C E (株)への社名変更を経て、今年 2013年 4月 評価技術による更なる社会貢献を目指し、パナソニック S N エバリュエーションテクノロジー(株)として、新たなスタートを切りました。

パナソニックグループ各社の商品開発現場で培った専門技術、知識、ノウハウを備えたエキスパート集団として、お客様の商品開発、生産活動に必要な計測評価・試験環境と技術サービスを提供しております。

#### 2. 試験所認定取得の経緯

ISO/IEC 17025 の要求事項に基づく品質管理システムを備えた事業者として、2006年に JAB (The Japan Accreditation Board for Conformity Assessment) EMC/SAR 試験所認定を取得いたしました。またそれ以外にも 1995年に JCSS (Japan Calibration Service System) 校正試験所認定、2010年に米国 A2LA (The American Association for Laboratory Accreditation) 校正試験所認定による EMC 試験所認定などを取得してまいりました。

これからもお客様の幅広いニーズにお応えするため、認定範囲の拡大などを着実に進めてまいります。

#### 3. 認定取得の維持と向上について

テクノロジーが急速に進歩する中で、新しい商品が絶え間なく生まれる今日。その中で私達は、先輩方がつくり上げた体制の維持および向上をさせていかなければなりません。その為、私は今後、以下の3点が重要なテーマであると考えております。



### (1) しくみづくり

新しい商品が絶え間なく生まれる今日。同時に絶えず新しい製品群の試作品などへの、新しい評価方法を確立していかなくてはなりません。安心・安全を守るのもますます難しくなっていくものと思います。だからこそ品質マネジメントシステムもそれに合わせて常に進化し続ける事が大事です。

今現在のしくみは過去（古いもの）とも考えられます。管理者として、日に新たを實踐できる組織づくりにも注力していきたいと考えます。

### (2) 若手の育成・技術の伝承

経験豊富で申請業務等に精通したベテラン社員の減少がみられますが、次世代を担う若手社員が思うように育っていないのが現状です。私も含め若手を中心に、JABLAS 主催のセミナー等に参加させて頂いておりますが、今後更に社員の資質や技術力向上を急ぐ必要があります。社内教育はもちろん、特に社外に出る活動を積極的に取り入れて行きたいと思っております。

### (3) 設備管理の強化

設備は導入したその日から少なからず劣化していきます。設備の状態を管理下に置く事が重要です。そのためには、時間計画による管理（校正年1回実施等のサイクル設定で故障を未然に防ぐ）と、状態監視による管理（始業前点検等により劣化の兆候を監視）が必要で、しくみが年1回だからではなく、その設備に合った両者の的確なバランスを保つことが、設備管理を効率的に行う為にはとても重要であると考えております。

また設備は校正とトレーサビリティの2つがセットになることで、計測として成り立ちます。どんな素晴らしい測定システムも、試験結果の品質担保は設備1つ1つの国家標準への測定トレーサビリティを確保する事が、全ての基本（原点）です。自分達の試験を世界共通のものさしを使い、意味のある試験結果にすることを決して忘れずに取組んで行きたいと思っております。

## 4. おわりに

ある電化製品を量販店で購入する場合、お客様が手にする瞬間、どの製品が安心・安全なのか。知りたい人は多いはずなのに、知る方法を知らない人が多いのではないのでしょうか。あまり詳しくない一般の主婦の方でも、一目でわかるような、もっともっとお客様に寄り添う形での活動をしていきたい。それが私の一担当者としての願いです。

安心・安全を求めるお客様のニーズは年々高まっていると感じます。最低限の品質から、度合い（レベル）を示すものを求められているのかもしれませんが。試験所として、「試験の重要性」をもっともっと認知して頂けるように、取組んでいきたいと考えております。

これからも私たちは、強い使命感を持って、お客様の安心・安全を支えるために、社会に貢献してまいります。

---

## 【会社概要】

会社名：パナソニック SN エバリュエーションテクノロジー株式会社

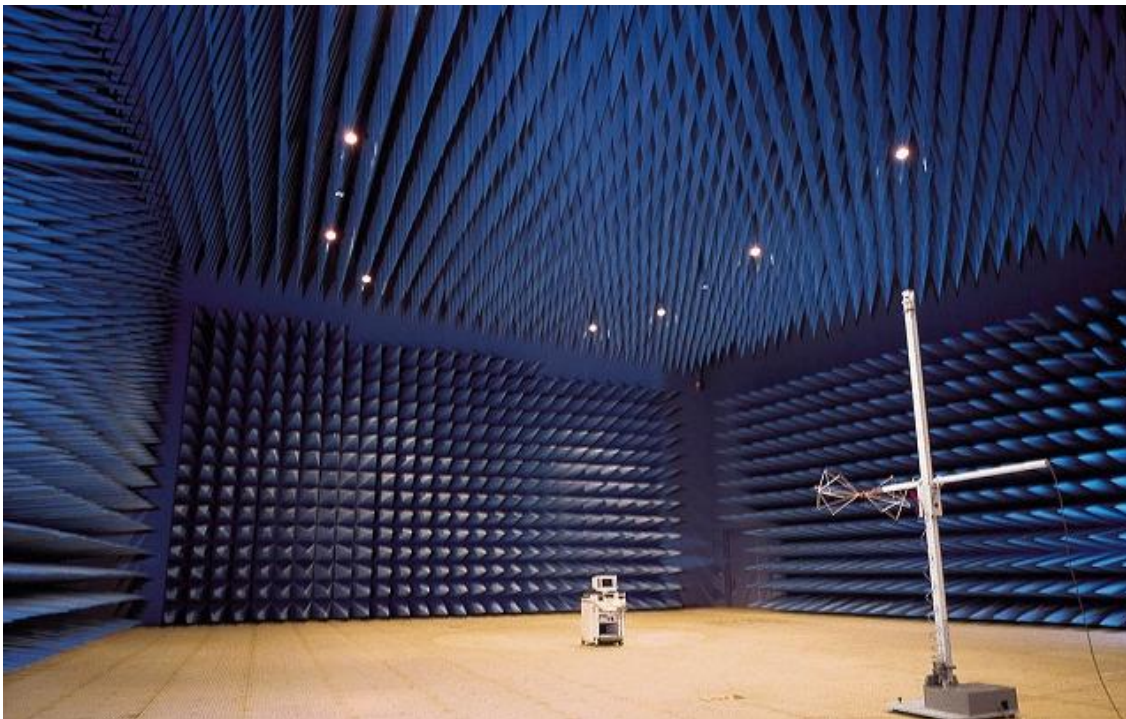
本社：〒224-8539 神奈川県横浜市都筑区佐江戸町 600 番地

設立：1985 年 5 月

従業員：50 人（2013 年 4 月 1 日現在）

- 業務分野：
1. EMC の適合性評価サービス
  2. 計測機器の校正サービス
  3. 包装試験・包装設計サービス
  4. 開発試作品の各種評価サービス
  5. 技術情報サービス

URL：<http://panasonic.co.jp/avc/psnet/>



大型電波暗室（大型機器対応）

---

以上

## 測定の不確かさへの思い (連載 第4回)

公益財団法人 日本適合性認定協会  
校正技術審査員 丹内清光

### 連載 第4回

#### 10. 産業技術総合研究所 計測標準研究部門と共同研究

上級経営者が低周波電力の分野の拡大とその認定を受ける基本方針を計画していた時に、産業技術総合研究所 計測標準研究部門の低周波電力の分野の方とお話をさせて頂く機会がありました。話をさせて頂く中で、低周波電力の分野で認定申請の希望があれば計測標準研究部門と共同研究という形で校正システムを構築してはどうですかと話を頂きました。

システム全体構想を話し合う中で、先ず、基本的に決めておかなければならない幾つか事項がありました。

- (1) 上級経営者の基本方針 (マーケティング方針も含め) の再確認
- (2) 顧客のニーズ ----- 校正対象品目、校正範囲と測定の不確かさの値、認定取得期日など
- (3) 設備投資金額とシステムの保守 ---- 可能な限り最小限の投資・システム保守工数の実現

低周波電力分野については、過去から多くの設備品や顧客の設備およびレンタル品の校正の経験もあり、標準器となり得る機器はほぼ揃っていたものの、校正可能な範囲は限られていましたのでシステム全体を見直す必要がありました。

低周波電力の分野で顧客のニーズに応えた実用的な校正を実現するには「試験電圧、試験電流、周波数、力率」と多くのパラメータが必要で、それに応じるシステムの構築にしなければなりません。

このため、上位校正機関へのトレーサビリティを考えると標準供給ポイントが膨大になってしまいます。

システムの保守を考えると「電圧、電流」は1ポイントで標準供給を受け、範囲の拡張可能であれば標準供給ポイントが軽減できると考え、低周波電力で基本となっている「100V 5A」の標準供給でトレーサビリティをとり、他の校正点は計器用変成器で電圧の分圧や電流の分流方式でとを考えました。

ここで測定の不確かさの値が小さく、長期的安定な計器用変成器が必要になりました。この方式で共同研究は決定し計器用変成器の早速製作に着手しました。

製作品は「2 ステージ誘導分圧器」、「誤差補償変流器」です。

お陰さまでその結果は、期待どおりの良好な特性が得られ、認定申請へととなりました。

「2 ステージ誘導分圧器」、「誤差補償変流器」共に、フェライトコアに巻かれ銅線の巻き線数により、分圧、変流比が決まりますので、その測定の不確かさも小さく、長期に渡りドリフトの少ない安定した特性が得られています。

やはり、その原理が計測器の信頼性を大きく左右していることは言うまでもありません。

また、校正範囲、測定の不確かさは上級経営者の基本方針や顧客のニーズにも充分に応えられるシステムとなりました。

この共同研究の成果の詳細は 2005 年 11 月 25 日に開催されました「計測標準フォーラム 第三回合同講演会 第 14 回日本 NCSLI フォーラム」で共同研究に共に製作あつた担当者が発表させて頂きました。

#### 11. ヘイモン分圧器、分周器の製作へ

これまで、各種の分野において ISO/IEC 17025:2005 の認定取得をし、その中で計測器の回路の分析や不確かさの検証を進める中で、デジタル・マルチメータの直線性の評価用として直流のヘイモン分圧器の製作を試みる事にしました。

ヘイモン抵抗器は、抵抗器を 11 本から 12 本直列に接続し、その両端に基準の電圧を印可すると抵抗器の接続点で分圧電圧を得られる抵抗分圧器で古の昔から電圧の分割に用いられている分圧原理で、接続点で接続の組み合わせを変えることで分圧比も変えられる優れた分圧原理を

持っています。

但し、接続の合わせを変える時に総ての抵抗が同じ値でないと分圧比をその都度計算し直す必要があり、この点を一寸やっかいです。そこで、製作に当たって目標としたことは、

- (1) 分圧比が長期的に安定なこと。  
(長期安定性のよいこと。経時変化を不確かさの要因としなくてもよいように)
- (2) 分圧比が正確で分圧比率が整数になること。  
(分圧比の補正計算が面倒でないように、分圧比の確度が良く、分圧比の補正をしなくても各接続点(各端子)で正確な分圧比が得られること。)
- (3) 各端子で接続の組み合わせを変えて、いろいろな分圧比を得る時も、組み合わせによる分圧比の補正をしなくてもよいこと。
- (4) 安価に製作可能なこと。(投資金額の削減)

と欲張った目標をたてました。

また直流電圧 1000 V 迄の分圧を考慮し、端子部分全体を高絶縁材料を使用し、フローティンにするとかの設計を行いました。

これを実現するにあたり、比較的安価に入手可能な市販の「金属パッケージ」に入りで、端子は「ハーメチックシール」された「金属薄膜抵抗」を多量に購入しました。

本来ならば抵抗器は、長期間放置後抵抗値が安定した時点で使用すれば良いのですが、今回、抵抗器は時間を置き数回測定ちから 2 本を並列に一組の組合せとして、それぞれが同じ抵抗値なるようにしました。

この時点で、更に、抵抗値の測定を行い、更に、それらを直列に組合せ一組としました。

従って、計 4 本の抵抗器が 1 本の抵抗器としたのです。これは型式：752A の抵抗器の考え方を採用したのです。この様にして、値をそろえた抵抗器を作る事が出来、ケースや端子を購入し組み上げました。

端子台座は、ケルビンバレー分圧器の端子の様に高絶縁材のテフロンを台座として使用しました。これで高電圧時に端子や抵抗器からの漏れ電流の配慮が出来たかと思えます。

完成したヘイモン分圧器は、長期的に安定度の確認には至っていませんが、目標とした事項は達成され分圧比誤差は  $10^{-6}$  より小さい値が得られ、実用標準器として使用できました。

これは測定の不確かさの信頼性にも良い結果となっています。

新規にケルビンバレー分圧器を購入するよりはるかに安価に製作出来たと自負しています。

しかし、製作には時間的制約もあり、はじめに、各抵抗を単体での温度係数を測定することが出来ず、温度係数を考慮した組み合わせを行っておきたかったと反省しています。

この様に、過去の経験を生かした品の製作が楽しくなり、その後は 10 MHz を基準周波数とし、1 Hz から 18 GHz までの整数周波数の分周器の製作にも挑戦し、周波数測定器や周波数カウンターなどの検査等にも役立つものを製作したのです。回路設計はともかくとして、回路分品が小さく、コンデンサーなどは米粒に 1/2 以下で、これをプリント板に半田付けするのは、老眼に近い我々には、これまた難航した一仕事でありました。近年では「Analog Devices, が、RF 入力周波数が 18GHz と高い PL L 周波数シンセサイザ」なども市販しているようです。

これで第 4 回目の連載を終わりましたが、実際に役立つ計測器の製作記事とう、校正の機関様には興味深いところも多くあったと思えます。

次回第 5 回目はよいよ最終回となりますが、まとめとして「測定の不確かさとよちよち歩きから何を教えられたか！」をお届けしますので、ご期待下さい。

## 活動報告

2013年10月以降の主な活動を紹介します。

### 1. これで納得！GUM 不確かさセミナー

2013年10月1日に、大阪国際会議場 グランキューブ大阪にて12名の参加を得て開催されました。

本セミナーは、JABLAS 設立以来、毎年実施しているセミナーです。毎年、少しずつ内容に特徴を持たせていますが、今年度は、不確かさ評価の基本的な方法を解説しながら、GUM の中でどのように取り扱われているかを確認、特に本文に書いてある内容重点を置いて簡単な例を通して解説がありました。

講師は、独立行政法人 産業技術総合研究所 測定標準研究部門の城野 克広 様でした。

### 2. これで納得！GUM 不確かさセミナー

2013年10月16日に、JAB 会議室にて34名の参加を得て開催されました。

内容は、前述の大阪会場で開催された内容と同じものです。

講師は、独立行政法人 産業技術総合研究所 測定標準研究部門の城野 克広 様 でした。

### 3. 機械・物理専門部会 見学会

2013年10月23日に、東京都小平市にある株式会社ブリヂストン様のご協力を得て、タイヤ実験部 試験設備の見学会を開催しました。参加者は非会員も含め20名でした。

ブリヂストン TODAY 見学、タイヤ実験部 試験設備の見学、タイヤ実験部の現状と認定取得の活用報告、質疑応答、名刺交換等盛りだくさんの内容でした。異業種の参加者からも大変参考になったとの声が寄せられ、実り多い見学会でした。



ジャンボタイヤ前での記念撮影

#### 4. 第5回経営者向けの試験所認定とマネジメントレビューセミナー

2013年10月29日に、JAB会議室にて11名の参加を得て開催されました。内容は、試験所の経営層を対象に、ISO/IEC 17025規格の意図するところ、経営者の責任と権限、マネジメントレビュー・内部監査の進め方等について解説し、他に、国際相互承認の仕組み、認定制度の世界の動向、認定のメリット等についても触れ、この規格を活用して自試験所の活性化に役立てることを目的としています。

講義の後で、参加者同士の意見交換の場も設けて理解を深めていただきました。講師は、JABLAS 代表理事 井須 雄一郎 でした。

今回は、資料を事前に送付して各自のパソコンにインストールしていただき、そのパソコンを会場に持参してもらうペーパーレスセミナーとしました。

アンケート結果でもこの方法は好評でしたので、今後拡大実施することを検討します。

#### 5. 創立5周年・法人化記念講演会

2013年11月6日に、東京都品川区立総合区民会館「きゅりあん」にて37名の参加を得て開催されました。詳細は2ページを参照下さい。

#### 6. マネジメントシステムの作り方セミナー

2013年11月19日に、JAB会議室にて17名の参加を得て開催されました。このセミナーでは、ISO/IEC 17025規格の要求事項の解説、規格要求事項の品質マニュアルへの展開と品質マニュアル事例について解説しました。新たに認定取得を考えておられる機関や既に認定取得済の機関にとっては、より質の高いマネジメントシステムの維持向上にお役に立ったと考えます。講師は、JABLAS 監事の木村 博則 でした。

#### 7. 特別宮川公開塾

2013年11月20日に、JAB会議室にて「試験所の為のよく分かるコスト・財務、損益管理」をテーマに8名の参加を得て開催されました。

内容は、1. 実務者に役立つ会計・財務の基本を理解する。

2. 財務指標を計算する。

3. 損益分岐点を計算する。

4. 事業への投資・回収をシュミレーションする。

で、それぞれエクセル表を使っでの演習も行いました。

経営という発想から現在の仕事を考えてみることは、試験所で働く全職員にとって必要なことと考えます。講師はJABLAS 契約コンサルタントの宮川 雅明 様 でした。

#### 8. 特別勉強会

2013年11月25日に、神奈川県産業技術センター（神奈川県海老名市）にて、神奈川県産業技術センター、神奈川県産業技術交流会、広域首都圏輸出製品技術支援センター及び公益財団法人 日本適合性認定協会の共同企画で、「海外との取引を加速する試験所認定制度（ISO/IEC 17025）について」と題する特別勉強会を35名の参加を得て開催しました。JABLAS は、事務局として本企画立案から運営を行いました。

対象は、中小企業の製造企業、試験所等の経営者・管理者・営業・技術職等の方々に、活発な質疑応答や名刺交換等が行われ当初の目的を達成したと考えます。

内容は、下記のとおりでした。

##### 1. 「試験所認定の世界の動向」

公益財団法人 日本適合性認定協会認定センター 久保野 副センター長 様

##### 2. 「ISO/IEC 17025 マイクロピペット校正概要」

サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社 ラボプロダクツ事業本部  
マネージャー 富岡 登 様

3. 「広域首都圏輸出製品技術支援センターでの中小企業向け海外展開支援について」  
地方独立行政法人 都立産業技術研究センター  
輸出製品技術支援センター 西野 義典 様

## 9. 機械・物理専門部会

2013年12月6日に、JAB会議室にて16名の参加を得て開催されました。  
今回は、下記事例発表を中心に開催された活発な質疑応答が行われました。

- 1) 「ISO/IEC 17025 試験所認定を取得して」\*透明な安全を、確かな安心に\*  
一般財団法人 日本文化用品安全試験所 ガラス製品試験センター 田尻 義親 様
- 2) 「試験調査会社における ISO/IEC 17025 認定取得活動」  
神鋼溶接サービス株式会社 品質保証グループ グループ長 中川 武 様
- 3) 「技能試験と不確かさ ISO 5725 に基づいて」  
公益財団法人 日本適合性認定協会 柿田 和俊 様

他に、次年度の活動計画が提案され、参加メンバーの賛同を得ました。

## 10. 微生物試験 バリデーションと不確かさの求め方

2013年12月10日に、JAB会議室にて18名の参加を得て開催されました。  
微生物試験法が大きく変わろうとしている今、微生物試験においても統計的手法による試験結果の質が重要となってきています。「試験法導入時の検証方法」を中心に、**Validation** と **Verification** について、わかりやすく解説するとともに、グループ討議を通して理解を深めました。また、不確かさの推定と試験結果の統計的処理の基礎を学んでいただきました。講師は、JABプログラムマネジャーの森 曜子 様 でした。

## 今後の予定

2014年1月から2014年4月にかけて開催予定のセミナー・勉強会等をご紹介します。  
奮ってご参加ください。詳細につきましては、JABLAS ウェブサイトにてご確認ください。  
ウェブサイトに掲載されていないものは、順次掲載予定ですので、しばらくお待ちください。

	名 称	開催日	開催場所	備考
1	第十八回ラボラトリーの為の 内部監査員養成セミナー	2014年1月29日 (水),30日(木)	JAB 会議室	本セミナーは2013 年12月12、13日 に開催予定を延期 したものです
2	モンテカルロ法による不確か さの求め方セミナー	2014年2月5日 (水)	JAB 会議室	
3	第6回試験所勉強会 校正事業における電磁気量・ 質量(電子天秤)の不確かさ	2014年2月6日 (木)	JAB 会議室	
4	JAB 試験所認定説明会 —どう使う?試験所認定—	2014年2月13日 (木)	東京都品川区立 総合区民会館 「きゅりあん」	JAB 主催
5	マネジメントシステムの作り 方/ISO/IEC 17025 セミナ ー	2014年2月20日 (木)	JAB 会議室	

6	第7回試験所勉強会 Web 上での試験所の受注に関する市場を探る	2014年2月26日 (水)	JAB 会議室	
7	JAB 試験所認定説明会 —どう使う？試験所認定—	2014年3月3日 (月)	大阪国際会議場 「グランキューブ 大阪」	JAB 主催
8	臨床検査室 易しい不確かさ セミナー	2014年3月4日 (火)	JAB 会議室	
9	第十九回ラボラトリーの為の 内部監査員養成セミナー	2014年3月11日 (火), 12日 (水)	JAB 会議室	
10	第8回試験所勉強会 試験所のための情報・データ ベースサービスの可能性を検討する	2014年3月20日 (木)	JAB 会議室	
11	第二十回ラボラトリーの為の 内部監査員養成セミナー	2013年3月27日 (木), 28日 (金)	JAB 会議室	
12	第6回経営者向けの試験所 認定とマネジメントレビュー セミナー	2014年4月4日 (金)	東京都品川区立 総合区民会館 「きゅりあん」	
13	第3回放射能試験所のため の内部監査員養成セミナー	2014年4月22日 (火), 23 (水)	JAB 会議室	

## 事務局だより

### 1. 相談受付のご案内

従来からメール、Fax、電話等でご相談をお受けしております  
担当幹事が不在等により、ご不便をお掛けすることがあるかと存じますので、予め  
内容をお聞きして対応ができる、面接相談の予約をお願い申し上げます。

料金は無料となっておりますので、お気軽にご相談ください。

### 2. 新規会員の募集

2013年12月30日現在で JABLAS 会の正会員数は、機関会員 121、個人会員 92、  
名誉会員 3、合計 216 となっております。

JABLAS 活動の基盤強化のため、引き続き新規会員の募集に注力しておりますので、  
是非ご関係の機関、個人の方へ JABLAS 入会のお誘いをよろしくようお願い申し上げます。  
ご一報頂ければ、事務局よりご説明にお伺いさせていただきます。

以上

編集兼発行人 井須 雄一郎 発行所 一般社団法人 JAB 試験所協議会  
住所：〒141-0022 東京都品川区東五反田 1 丁目 22 - 1 五反田 AN ビル 3F  
電話：03 - 5798 - 8820 FAX：03 - 5798 - 8821 E-MAIL：info@jablas.jp  
URL：http://jablas.jp

※無断で複製、転載等を禁じます。